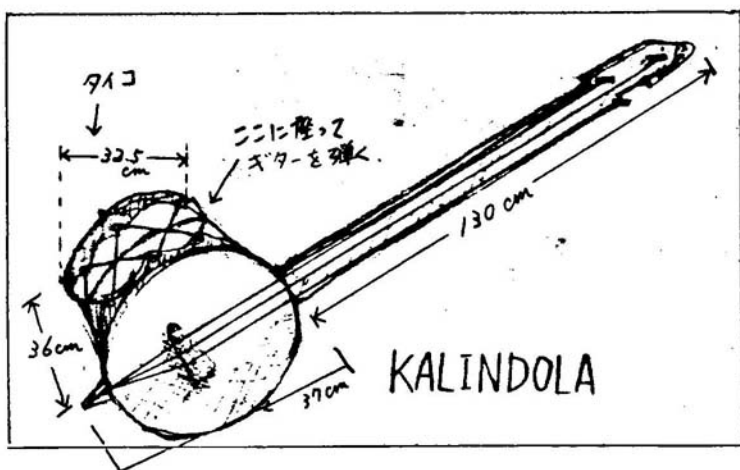


お わ り に

バテンボ族は、狩猟民ピグミーと似ている。身長などは違うが、ピグミーの狩猟による動物の肉と村の農作物との交換。ピグミーから村への労働提供。雨期には村に近いベースキャンプに移動することなど、農耕民との「共生関係」が保たれている点。また、狩猟方法にネットハンティング(網猟)があり、バンドごとに生活している点など、バテンボにおいても同様の報告が出来るからである。

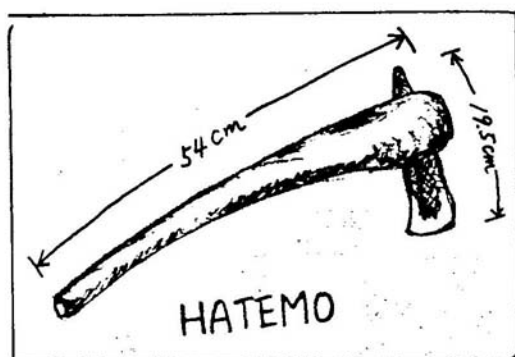
さて、「狩猟採集社会における生活と文化」という論題でここまで述べてきたが、調査報告を羅列しただけの感がある。しかし、私としては、それで満足している。ただ、残念なのは、調査の未熟さ、突っ込みの浅さといった点である。短期間のフィールドワークであり、異質の言語のために通訳に頼るところが大きく、彼らの社会(生活)の表面的なところを見てきただけに終わっているかもしれない。

最後に、バテンボ族の人々は、我々からみれば、貧しい・不便な・衛生的でない社会生活を送っているかもしれない。しかし、現代文明社会が見失いつつある、人間本来の姿がここには残されているような気がする。時間に束縛されることもなく、素直に喜怒哀楽があらわれ、周囲の人のことを常に考えてやる思いやりがあり、報酬を期待しない行為がここにはあった。



<楽 器>

農耕民から入ってきたもので、ギターとタイコが一緒になっている



獲物の骨を割ったり、木をきるのに用いる